

している。様々な表出手段を考える。以上のように、子どもたちの社会参加・自立のためにはICT活用は欠かせないと感じました。「使わせない」のではなく、「望ましい使い方」を伝えていくことが大切だと考えます。

実践事例2「動画配信サイトの利用に関する情報モラル」

北海道手稲養護学校三角山分校
佐橋亜起英

(1) 本校の概要

私の勤務する本校は道立学校として唯一の病弱特別支援学校であり、北海道医療センターに隣接しています。児童生徒の約八割が筋ジストロフィー等の神経筋疾患であり、札幌市及び道内各地より入院して通学しています。令和二年八月に国立病院機構八雲病院が札幌市の北海道医療センターへ機能移転するのに併せて、北海道八雲養護学校が北海道手稲養護学校三角山分校と名称を変え移転しました。また、令和五年度より病院訪問教育も実施しており病気療養中の児童・生徒を対象に札幌市内の病院に訪問して指導を行っています。今回は、在校の生徒に実践した内容を紹介します。

(2) 生徒の実態と学習環境について

在校する生徒は全員が車いすで生活しており、学習環境は個の実態に応じたICT機器を設定しています。学校として学習用端末を貸し出し、ICTを活用した学習を提供しています。障害の特性上、社会経験や集団での学習経験が少なくコミュニケーションが苦手な生徒に対して指導を行っています。

(3) 情報モラルの学習の必要性

現代社会においてインターネットを介した文章またはテキストでのコミュニケーションは必要不可欠となっています。それは生徒も同じですが、実際のところはコミュニケーションアプリを使って家族と連絡を取りあう程度に留まっているのが現状です。

余暇活動の側面から自分が興味のある動画を視聴するというのは生徒たちにとって大きなウエイトを占めており、興味・関心のあるカテゴリから必要な情報を読み取るツールとなっています。ただ、閲覧するだけではない、誰かに自分の思いを伝え、さらにはつながることが出来るツールであってほしいと考え、単元計画を立てました。生徒全員が動画投稿サイトの閲覧をしているのは事前に知って

ましたが、学習を進めるにあたって、対象である五人の生徒に質問をしました。



(4) 実態把握

Q. 動画投稿サイトでコメントしたことがありますか？
ある・・・二人
ない・・・三人

それぞれに理由を確認したところ次のような回答が挙げられました。

○コメントしたことがある生徒

・動画が面白かったから（制作者に）
感想を伝えたかった

・感想を伝えたかった

○コメントしたことがない生徒

・お母さんのアカウン